地域生活を支える
社会福祉法人
第220回

社会福祉法人 愛泉会［宮崎県日南市］の試み

子どもたちの夢と福祉の心を育て 地域が一体となって共生社会をつくる

医療と福祉の連携を図り、誰もが住みやすいまちづくりを推進。
法人・企業が協力して地域貢献活動に取り組む

愛泉会

法人名
社会福祉法人 愛泉会

本部住所
〒889-2401
宮崎県日南市北郷町大藤甲3186番地1

URL
http://www.aisenkai.jp/

理事長
西島 英利

事業内容
- 特別養護老人ホーム
- 養護老人ホーム
- 医療型障がい児入所施設
- 障がい者療養介護施設
- 老人デイサービス事業
- 老人短期入所事業
- 障がい福祉サービス事業
- 生計困難者に対する相談支援事業
- 急性期病院事業

愛泉会が本部を置く特別養護老人ホーム「河鹿の里」（宮崎県日南市）。

「愛泉会日南病院」では「人権の尊重」の理念のもと、地域社会とのかかわりや一人ひとりの生きがいを大切にした重心医療療育を行っている。

社会福祉法人 愛泉会の沿革

戦後、地域における基幹病院のなかった日南市において、宮崎県立日南病院の設立に尽力した川越茂氏は、当時、診療所がなかった隣町の旧北郷町において北郷町長の高橋 良則氏とともに、山村地域の高齢社会の到来を見据えて温泉施設を中心とした福祉村を構想。昭和54年に私財を投じて愛泉会を創設し、翌年、特別養護老人ホーム「河鹿の里」を開設した。

平成5年、旧北郷町から養護老人ホーム「清風園」を受託し、経営。平成14年には重症心身障がい児者の入所施設を主事業とする国立療養所日南病院の移譲を受け、現在「愛泉会日南病院」を経営している。現理事長である西島 英利氏は、「個人の尊厳を守る」という法人理念とノーマライゼーションの思想を職員と共有し、さまざまな取組を通じて医療と福祉の連携強化を推進している。

「誰にでも、必要なとき、必要なサービス」を迅速に提供できるよう、地域が一体となって「共に支え、共に生きる」まちづくりをめざしている。

社会福祉法人 愛泉会の 理念と方針

［法人理念］

私達は、「人間尊重」を基本理念とし、地域において「医療・介護・福祉」を創造し、愛される施設を目指します。

［法人方針］

(1) 地域に根ざした社会福祉の新たな展開や、多様な医療・福祉文化の創出に貢献します。
(2) 医療・保健と福祉が連携し、「誰にでも、必要なとき、必要なサービス」を迅速に提供します。
(3) 地域の人々が、安心して生活できるよう「共に支え、共に生きる」地域福祉・医療の施設づくり、まちづくりに寄与します。

愛泉会日南病院に長年にわたり定期的に慰問に訪れる地元Jリーグチームの選手たち。福祉を学びに病院を訪問する地域の小学生とも、スポーツを通じて交流を図っている。

宮崎大学演劇部、文藝部との協働で実現させた演劇プロジェクトのポスター

愛泉会の試み
Case 1

地域の方がたと連携し共生社会とリンクした地方創生の実現をめざす

重症心身障がい児者の方がた6名が、全国初となる本格的な演劇に挑戦。本番を終えた後は参加者と職員が一緒になってうれし涙を流すほど感動していた。

愛泉会は、重症心身障がい児者の社会参画とリンクさせた地方創生のための企画を宮崎県内の企業や団体へ積極的に提案し、地域の方がたと協力して、地域を活性化させる取組を行っている。

JR九州と地元の高校との連携では、「愛泉会日南病院」の重症心身障がい児者の方がたに喜んでいただくため、地元の高校生と一緒に貸切列車の旅を提案し、実現。特別ダイヤで列車を走らせて、車内では学生が主催するイベントを楽しんだ。

「過疎化が進む日南市では公共交通機関の存続が危ぶまれています。このプロジェクトでは廃線の可能性がある地元の鉄道を活用することで、公共交通機関の重要性を再認識してもらい、鉄道の存続も目的としています」(西島 元利業務執行理事：以降、西島理事)。

地元Jリーグチームとの連携では、平成24年から選手が定期的に病院を訪れ、スポーツ活動を通じた交流を図る「ふれあいスポーツ活動」を行っている。スポーツをすることの喜びや、選手とふれあうことで刺激を感じてほしいという思いと、Jリーグの「地域貢献」「社会貢献」という理念がリンクした活動となっている。法人ではスポンサーや運営ボランティアとして、地元のシンボルであるチームを長年支え続けている。

「地元に誇れるものや応援したくなるものがあると、地域の方がたの心がひとつになると思います。そうした心の醸成のもと、福祉と連携し、新たな挑戦と既存の事象のアップデートを行う事が、地方創生の真髄ではないかと考えています」(西島理事)。

2021年には、重症心身障がい児者が演者となる演劇にも挑戦した。この取組は全国初の試みであり、宮崎大学演劇部の学生から演技指導を受け1年かけて稽古を積み、出演予定だった全国障害者芸術文化祭はコロナ禍の影響で中止となるも、令和3年に日本重症心身障害福祉協会西日本施設協議会総会の際、リモート中継で披露した。

前例がなく、演者の心身への影響など不安もあったが、一人ひとりが“主役”として目標をもって努力し、人生を歩む自信につなげてほしいという思いのもと一致団結してやり遂げ、職員からは「患者さんの新たな発見があった」「皆で挑戦できて本当によかった」など、喜びの声があった。

この取組の様子はメディアによる密着取材の後、令和4年1月にドキュメンタリーとして全国放送されて大きな反響を得ており、重症心身障がい児者の生きがいづくりのみならず、演劇界においても新たな可能性を切り拓いた。

宮崎市に向けてJR日南線で貸切列車の旅を実施。ハロウィン仕様に飾られた車両内で高校生たちとの交流を楽しんだ。

愛泉会の試み
Case 2

世代別のキャリア教育に取り組み地域の子どもたちの夢と福祉の心を育む

「医療福祉プロジェクト」に参加したことがきっかけとなって、医療従事者をめざすようになった高校生もいる。

平成27年からは地元の小学生から高校生に段階的な「キャリア教育」を実施。愛泉会日南病院の重症心身障がい児者の方がたとふれあう機会と、福祉の職業体験や企画参画を通じて、障がい者への理解と子どもたちの心の育みを目的として市内各教育機関等に提案し、取り組んでいる。

まずは小学校3年生時の相互訪問からスタートし、スタッフを介したコミュニケーションを通じて、お互いの心や夢を知ることで、重症心身障がい児者を身近に感じてもらう。

小学校高学年では、将来の医療・福祉人材の確保も視点におき、職業体験や職業講話を行っている。今年度からは、地元経済団体と連携して、廃止予定だった市主催の職業体験イベントを引き継ぎ、それまでの福祉・行政・建設等の業界に、新たにプロ野球チーム等、14の企業や団体に参加してもらうなど、大幅にリニューアルさせた。

地域の仕事を紹介し、夢を育むと同時に、若者の流出に歯止めをかけるため地域全体で人材の育成と地域活性化に取り組んでいる。

「小中学生への職業講話の際、将来の夢に対する質問に『何もない』と答える子が多く、子どもたちの将来に不安を抱きました。夢や希望がもてるように心を育成し、夢を実現する力を身につけてもらうことも、地域の未来を築いていく社会福祉法人の役割であると考えています」(西島理事)。

法人では、リニューアル前からこのイベントに新卒看護師を参加させている。子どもたちに仕事を教えたり、仕事に対する思いを伝えることで自身の仕事の原点に立ち返り、仕事への自信ややりがいにつながっている。地元に貢献したいという気持ちも芽生え新卒者の就労定着にもつながっている。

高校生へのキャリア教育としては、平成28年から「医療福祉プロジェクト」として、1年単位で継続的に取り組む活動の場を提供し、生徒主体で活動を企画・運営している。例年開催される音楽会では、職員のサポートを得ながら障がいがある方と直接コミュニケーションをとり、準備から本番まですべてを生徒が取り仕切り、プロジェクトを通じて自らの成長を実感する場となっている。

「地域課題や地域への思いを他法人やさまざまな企業と共有し、地域全体を巻き込んでキャリア教育を進めていきたいと考えています。子どもたちが地域で活躍してくれることを願うとともに、『日南で育つ子は福祉の心を誰もがもっている』と誇れるように、地域の福祉力を高めていきたいと思います」(西島理事)。

小学校高学年の職業体験の様子。市内の小中学生70～80名が参加する職業体験イベントではさまざまな専門職の仕事を実際に体験することができる。

愛泉会の試み
Case 3

医療と福祉の連携を図り誰もが安心して暮らせる地域づくりを先導する

連絡会は地域における公益的な取組、経営組織のあり方を日南市内全域でともに考えていくこと、分野を超えて法人同士が交流する機会をつくることを目的として組織された。

平成14年には、国立療養所日南病院の移譲を受け、愛泉会日南病院として医療分野でも地域に貢献。地域ニーズを考慮して以前より設置していた重症心身障害医療部門と一般内科部門に加えて整形外科・血液内科・小児発達外来を開設した。県立病院に一極集中していた地域医療を一緒に支えることができるようになり、交通面での利便性や待ち時間の解消などにより、地域の方がたにとってなくてはならない存在となっている。

さらに、急性期医療、重症心身障がい児者を介護する家族のレスパイトケア等を目的とした医療型短期入所事業・日中一時支援事業など、医療と福祉の連携を推進。連携がスムーズに行えるように、地域連携課に医療相談窓口を設置し、院内には相談支援事業所「うみがめ」を併設している。入所や、在宅福祉サービスの相談など医療と福祉サービスにかかわる相談を広く受けている。

平成28年には、日南市社会福祉協議会を中心に17法人で結成された「日南市社会福祉施設等連絡会」に参画。地域貢献事業推進会議を定期開催し、活動の進捗や情報を共有している。

愛泉会では、「福祉・介護セミナー等講師派遣事業」をはじめ、生計困難者の生活に必要な食料などを迅速に支援する「フードバンク事業」や、養護老人ホーム「清風園」において、高齢者が孤独や不安がなく、社会的なつながりをつくることを目的に、「ひとり暮らし老人誕生会招待事業」を開催。この事業は、施設の見学として内部の雰囲気を知ってもらい、施設の方がたと顔見知りになることで、施設の宣伝にもなり、入所希望にもつながっている。

連絡会ではほかにも「こどもの居場所づくり事業」、「緊急生活資金給付事業」などを行っている。

「地域のニーズは多様化しており、公的なサービスだけでは不十分な課題、福祉分野のみでは解決できない課題が生じています。相談できる場所をつくり、顔見知りの関係を増やしていき、地域の誰もが安心して暮らすことができるまちづくりを社会福祉法人が中心となってめざしていきたいと思っています」（河鹿の里 小玉 武士施設長・清風園 谷山 聖一施設長）。

「ひとり暮らし老人誕生会招待事業」を実施することで、地域の高齢者の孤独感や不安感の解消につながっている。

連絡会で実施している地域貢献活動のチラシ。

愛泉会の試み
Case 4

多職種連携による発達障がい支援の地域ネットワークを構築する

名付け親でもある「愛泉会日南病院」が作成した相談支援ファイル「ミライノート」の周知ポスター。市自立支援協議会プロジェクトチームのサブリーダーも務めている。

愛泉会日南病院では、就学前の発達障がい児にも対応しており、理学療法士や作業療法士、言語聴覚士などの専門職種によるリハビリテーション訓練やペアレントトレーニングを行ってきた。そのなかで医学的アプローチとともに、多職種の支援関係者が子育て環境にかかわる必要があると考えている。

「いろいろな角度から子どもを見なければ問題はなかなか解決しません。そこで、各分野で集めた情報や対処法を共有し、協働してケアに取り組んでいくために、発達障がい支援のネットワーク化を図ることが重要だと考えています」（愛泉会日南病院 布井 博幸院長）。

法人では「日南子育て研修会」を開催し、情報共有と専門家同士の横のつながりの構築を図っている。医療・保健・福祉・教育・行政機関などから毎回30名が集まり、講演やケーススタディを行っている。今後は保護者のサポートと教育にも視野を広げていきたいと考え、令和4年から発達障がいの子どもの支援に長年携わってきた臨床心理士を採用した。

「県や市が推進されている子ども包括支援センター構想に、私たちが構築しようとしているネットワークを取り入れていただければと思っています」（布井院長）。

また、情報共有をスムーズに行うために、市や関連事業所と共同作成した相談支援ファイル「ミライノート」を活用している。このファイルに、これまで受けてきた支援内容や今後求める支援内容など保護者が子どもにかかわる情報を書き込み、支援者とファイルを共有して正確に情報を伝える。支援にかかわる専門家たちもファイルに情報を積み重ねていき、その子どもの特性や必要なケアを互いに理解しあいながら、連携して支援を行っていくことができる。また法人は市自立支援協議会特別プロジェクトチームのサブリーダーも務めており相談支援ファイルのさらなる普及と活用法を検討している。

「いまはアナログな形で情報を共有していますが、より活用しやすくするために今後はデジタル化していくべきだと思いますので、実現に向けて行政と協議を行っています。このファイルを活用しつつ、適切な支援につながるように関係者のネットワークもさらに強化していきたいと思います」（西島理事）。

「誰もが幸せに暮らせるまちづくり」の実現に向けて、これまで築いてきたネットワーク、そして職員の専門性と福祉力を活かし、医療と福祉のさらなる連携を進めていく。

発達障がい児の支援にかかわる専門家が集う「日南子育て研修会」は、今後、多職種連携のプラットフォームとしての機能を強化していく。